

関係各位

日本LPガス協会

第5回 グリーンLPガスの生産技術開発に向けた研究会 議事要旨

- 日時：2021年3月25日(木) 10:00~12:00
- 場所：日本LPガス協会 第1会議室
- 出席者：関根座長(早稲田大学教授)、橋爪委員(エネ庁 資源・燃料部、石油流通課企画官)、坂西委員(産業技術総合研究所)他 委員(9名)、オブザーバー他(16名)、事務局(3名)

議事概要

(1) 以下の2名によるプレゼンテーションの後、関根座長及び石油流通課 橋爪企画官より過去5回に亘って行われた本研究に関する総括があった。

- ・「家畜のふん尿から新しいエネルギーを創出する技術を開発」

古河電気工業(株)本間パートナー開発部長、福嶋新領域育成部部長

→ 安価で長寿命なラムネ触媒によって、家畜のふん尿から二酸化炭素とメタンを含む合成ガスを経てLPGを製造する技術の紹介等。

- ・「DME混合によるLPガスの低炭素化」日本DME協会 大野理事長

→ DMEの合成技術と利用に関するこれまでの研究成果、バイオマス資源からDMEを製造した場合の経済性評価の紹介等。

(2) 議論ならびに全体総括(要約)

- ・ 古河電気工業の発表に対して、LPG合成時の他の炭化水素の組成比や、下水汚泥等の利用の可能性についての質問に対し、以下の回答があった。

→ LPG合成ではC1からC7までの成分ができる。C1とC2は量が少ないため再利用可能だが、C5以上は分離する必要があり、できる限りC4以下の成分だけにするよう条件を検討している。リソースについては下水汚泥なども利用可能である。

- ・ 日本DME協会の発表に対して、リソースとしてどのバイオマス資源が最も有望か、また経済性の経評価時のLPG価格の考え方等についての質問に対し、前者についてはその調達価格が重要であること(大野理事長)、また後者については試算で使用されている卸売価格以外にも、CPやCIF価格の採用も考えられるのではないか、との意見が出された。

- ・ 全体総括として、関根座長より、「過去5回に亘る本研究会により、LPガスの今後のグリーン化に向けた一連の流れが整理され、新しい方向性を模索して行く上で大変有意義なものとなった」との話しに続き、橋爪企画官より、「当初はFT合成によるプロパネーションを研究会の中心テーマに据えていたが、研究会を通じてバイオ原料によるDME製造、或いはブタン合成も有望であることが分かり、本研究会の成果を今後の政策論議に反映させていきたい」との話しがあった。

以上